

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

①コミュニティ大学にコーディネーターコース(仮称)を新設する

理由：コミュニティ大学に、区民の交流を生み出し、自治の力を育む社会教育の実現を目的に、コーディネーターコースを新設する。さらにコースで学んだ区民の主体的な活動を支援することで、協働のまちづくりや多様な地域課題等に対応していく区民活動の活性化を図る。

実現するために必要なこと：コーディネーターコース(仮称)の基本設計やプログラムデザイン、支援の方策等を検討するチーム、委員会を設置する。コース開始後は、運営、評価等を担う運営委員会等による集団的な運営体制としていくことが求められる。

②地域活動や文化芸術活動サポーター制度をつくる

理由：地域活動や文化芸術活動の担い手の高齢化に伴い、活動が衰退してきている。一方、イベント等に関心を持ちながらも、参加のきっかけを持ちえない若い世代がいる。サポートを望む立場とサポートする立場をつなぐ仕組みがあれば、ウィンウィンの関係を生み出す可能性が高まる。サポート内容としては、イベントの設営や運営、情報発信等を想定。また、ICT化や多文化化への対応も可能となる。

実現するために必要なこと：区内大学の学生に情報を届けるために、大学と区との協定を結ぶ。その協定に基づき、学内に専用掲示板の設置、大学ホームページ内の専用スペースの確保等を行う。ブックカフェの利用者からの「やりたい」へも対応する。マッチングを担う組織の常設化が必要となる。

③多文化共生豊島区かるたの作成

理由：1983年に作成された「豊島区郷土かるた」があるが、多文化共生の進展を踏まえ、新しいかるたを作成する。多文化共生時代にふさわしい豊島区かるたを作成し、活用することで留学生を始めとした若者の豊島区への関心を高め、また、区立学校での活用により、子どもたちの豊島区への愛着を育むことにつながる。かるたを通して文化や世代を越えた交流が生まれる可能性がある。

実現するために必要なこと：公募による作成委員会を設置し、委員会自体の多文化化を図り、さらに、作成のプロセス自体を随時公開することなどにより、区民の関心を高めていくことが求められる。

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 自己評価（プレ評価・中間評価・ポスト評価）

理由：第7期の際に評価を軸に議論したこと、経験学習では想定（終了後になっていたい理想の姿）とふりかえりの双方が重要なため。

実現するために必要なこと：プレ評価・中間評価／毎回の評価・ポスト評価におけるアンケート表の作成、分析。一律的な評価制度の策定。

② アウトカム・インパクト評価

理由：さまざまな生涯学習の効果・影響を中長期的に計測し、生涯学習の成果と課題を可視化するため。

実現するために必要なこと：アウトカム（それによって他者がどのように変化したのか）と、インパクト（生涯学習をおこなうことで地域・社会（豊島区）がどのように変化したのか）をこの2年間に絞って集中的に調査する（ヒアリング、アンケート調査等）。

③ 指導者・講師の研修制度

理由：豊島区が目指すビジョン（アートカルチャー、SDGs等）の理念・活動を理解した上で、講師がシラバスを作成することで、豊島区全体の生涯学習が他自治体と比べて特色を持つため。

実現するために必要なこと：定期的な研修をおこなえる研修制度の確立、講師のプレ評価・ポスト評価、FD担当の講師（先生の先生／アドバイザー／メンター）の設置等。

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 地域と緩やかにつながる場所の提供 (つどう)

理由：地域の方が気軽に立ち寄れる場所があることで、自分の住む地域を知るきっかけになり、孤独感の軽減にも繋がる

例：サークル等には属したくないが地域とは繋がっていたい人が、情報を収集する場として
学生の長期休暇中、自習やグループ課題をする、家庭・学校以外の居場所として
地域の人が集まり、何気ない会話の中から地域課題が見えてくる可能性もある

実現するために必要なこと：

- ・設置地域、運用の検討
- ・場所の確保

その他

- ・解決対象：豊島区生涯学習推進ビジョン改定に向けての現状 P.21

② 活動団体の情報を蓄積・活用 (つながる)

理由：地域活動に参加しても良いという生涯学習団体の情報を蓄積し、事業の講師・スタッフ等として参加してもらうことで、日ごろの学習成果を生かす・地域に還元する機会を提供できる
また、団体の事業参加数が生涯学習の評価の可視化にもなるのではないか

実現するために必要なこと：

- ・登録要件の確立
- ・団体への登録可否アンケート実施

その他

- ・としま生涯学習人材バンクとの差別化
→実績が必要、登録のハードルが高い？
- ・解決対象：豊島区生涯学習推進ビジョン改定に向けての現状 P.18

③ 豊島区生涯学習会議の開催 (つながる・つくりだす)

理由：区内の生涯学習に関する施設・生涯学習に興味関心のある施設が一堂に会し、自分たちがやりたいこと、自分たちが出来ることを共有することで、横のつながりを作り、事業の幅を広げる

実現するために必要なこと：

- ・開催概要の作成
- ・開催周知

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 外国籍の方が区民の学びの輪に参加（子供、大人を問わず）

理由：区内には外国籍の方が多く居住しており、今後の地域づくりには外国籍の方の参加が不可欠な
のでは。対象を外国籍の方に限定したイベントや学びにとどまらず、区民対象のイベント・講座に旧
住民と外国籍の方がともに参加し相互交流できるようになるのが理想である。

実現するために必要なこと：

外国籍の方対象の生活の為の日本語習得を促進

外国籍の方に日本・豊島区の地域社会の理解促進

旧住民への多文化への理解促進

② 学びのコーディネート機能強化

理由：サークル活動が減少傾向にあり、区民の学びがネット活用等により個人で完結する場合や（カ
ルチャーセンター等専門施設における）講師と学習者の関係で成立する、また資格に直結している等
区民同士が立ち上げ交流を通して学んでいく形が薄くなっているように思う。

実現するために必要なこと：

イベントを実施したい方、つながりを持ちたい方をサポートするため、その方を後押しし、準備・開催・
振り返りまで伴走できる人材を確保し実施できる拠点を多くする。

施設の貸館以外の機能を強化、区民活動交流センターとの連携、CSWとの連携

③ 新しい地域連携を促進する学び

理由：今後地域を担っていく20～40代の方々の町会への加入率が低い。そのことで、学びの結果を
町会の活動に反映する、また、既存の町会の方々の行っている学びを地域の方々に広く伝えていくこ
とが難しくなっている。各地域の町会とは別に若者やファミリー層の輪をつくり地域連携を促進する
ことが必要。

実現するために必要なこと：

若者やファミリー層対象のイベントを小さくてもよいので数多く実施する。また当事者自身が参画で
きる枠組みをつくる。

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 学習の成果を生かすコーディネート機能の強化

理由：この問題が根本なのではないか。ここを解決を目指す、多世代交流、若者が集いやすい雰囲気づくり、若年層も魅力とを感じる講座内容の課題も結果としてついてくると思うから。

実現するために必要なこと：

講師の発掘、社会教育士、学芸員、スポーツ推進委員、学習支援者の配置、派遣。

学習支援者の研修体制の充実。

ネットワーク繋がり、協力し、地域ブランディングする。

② 部活動の地域移行

理由：人材不足。どうしていくか模索中だから。

実現するために必要なこと：

コーチ、講師の派遣。学習の成果を生かす場としての活用。学校と行政、民営、団体と連帯、協力。

③ 多世代交流

理由：少子化の問題。若い世代の社会活動で若い世代も高齢層も孤独感から抜けるヒントになればいいと思ったから。防災にもなるから。

実現するために必要なこと：

部活動の地域移行、館を超えた文化祭の開催、デジタル技術、リモート学習ツールの活用。

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ（別紙：資料2-1）をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 学習の成果を生かすコーディネーター機能の強化

理由：つながる・つくりだすにおいてコーディネーターは不可欠

実現するために必要なこと：

- ・学習成果を正しく評価した上で、その後の活動の場として学習ネットワーク交流会に参加して、他の学習者・支援者・施設運営者・職員と繋がりを持ち、コーディネーターとして活躍してもらう。
- ・学習修了者に例えばコーディネーター養成講座を受けてもらい、コーディネーター登録をしてもらう。

② 若年層に向けた学習支援

理由：時間的・経済的・精神的なゆとりがなく、学習意欲があっても行動に移せない若者が多くいる

実現するために必要なこと：

社会との関わりを持つ若者もいれば、関わりを持たない若者もいる。若者自身が自らの生き方を選択できるような支援・応援体制が望まれる。具体的には、学習機会・社会参加の機会、またキャリア教育の実施などが必要。

③ 日本語教室の充実

理由：保育・教育現場での負担軽減

実現するために必要なこと：

・ 幼稚園日本語教室

第2回 第八期豊島区生涯学習推進協議会 事前課題シート

第1回の議論や、今期生涯学習推進ビジョンの評価まとめ(別紙:資料2-1)をもとに、次期生涯学習推進ビジョンにおいて重点的に取り組むべきと思うことを3つ取り上げてください。協議会当日、本シートの写しを全委員へ共有し、議論を深めるための材料とします。

① 日本語指導の充実

理由：日本語指導教室では、小学校1～3年生の教科書を使って指導をしていた。小学校の教科書は日本で小学校に入る前の6年ほどの生活経験があって初めて効果的なものとなるが、そうではない外国人にとっては難解なものである。そこで、豊島区独自の日本語教材を作成し、区内の日本語指導のボランティア団体も同じ教材を使用することで指導の充実が図れるものとする。

実現するために必要なこと：①日本語指導に精通している学習院大学や立教大学の協力を得る。

②豊島区教育委員会に日本語指導に特化した部署を設置する。

③上記の部署の所管として、教育センター日本語指導教室の指導員、学習院大学・立教大学、ボランティアを含めた他の団体から日本語指導に精通した方々を招聘し、共同作業による作成を行う。

② 各地域区民広場の若者利用の充実

理由：資料1-7「豊島区生涯学習ビジョン改訂に向けての現状」のP5「地域区民ひろば利用者数(年齢層別)」によると、中高生の利用者数が圧倒的に少ないため、中高生の横のつながりを増やす。

実現するために必要なこと：

①アニメの豊島区として、次期アニメ作家の育成を兼ねた活動を行う。

②中高生によるアニメもしくは漫画の共同作成をする。そのためにアニメ作家、漫画家を講師として招聘し、各地域区民広場を巡回指導する。

③年1回26の地域区民広場で作成したアニメ、漫画のコンクールを行う。

③ としまコミュニティ大学での学びの充実

理由：個人の個人による学習で消化してしまう傾向があるため、学習成果が個人の範囲でとどまり、不特定多数への発信に至っていない。

実現するために必要なこと：

①不特定多数に共通する実生活に役立つ講座を区内の企業とタイアップして開設する。(大塚製薬とのコラボのようなもの)

②学んでいる様子や成果発表の場をケーブルテレビで放映し、広く発信する。

③区のホームページにこの分野を解説し、発信する。